

良城だからこそその自然体験学習の場の創設 ～楽たま河川広場～

本校の学校環境の最大の特徴は何になるでしょうか。

私は、山に囲まれた自然環境豊かな学校ではないかと思います。子ども達の優しさ、まじめさは、本校（吉敷地域全体も）が美しい緑の山に囲まれているこの立地環境によるところも大きいのではないかと思います。本校舎や運動場から見る目の前の緑の山々。近隣の大歳小や湯田小にはない最大の魅力です。ホームページの学校写真もこの姿を用いています。

ところで、せっかくの自然環境ですから、日々の教育活動にもっと生かしたいですね。

本校には学校林（楽校林）活動があります。数十年前から活動行われてはいるのですが、学校林は数kmも奥にあり、片道で1時間位も歩くことから日常的な活動は不可能です。吉敷川の活動もありますが、それでも日常活動ができる距離ではありません。

私は本校に着任したときから、気軽に歩いて行ける山の開拓ができないかと思っていましたが、ここまで進めることはできませんでした。

それが、ここ最近急に実現できそうな状況が生まれてきました。山での活動ではありませんが、吉敷川よりもっときれいな川での活動です。そんな場所があったっけ？どこ？と思われたでことしょう。

それは、運動場の南側フェンスの外側です。ここには龍造寺の鼓の滝を源流とする木崎川が流れており、河川改修によりコンクリート護岸となっていますが、川底には自然の草が生え、自然のホタルが舞う美しい川です。

木崎川と学校の間は10mくらいの幅の平地があります。これまでこの部分は、年に1回のPTA作業で草を刈ってはいましたが、年間を通して草ぼうぼうで蛇も出そうで、近づける状態ではありませんでした。

しかし、本年度になり、地域の方や元山



さんの草刈りによりかなりきれいになっています。さらに、先日、地域の環境部の方々が川の中の木やツタを除去してくださいました。

昨日、環境部の方が再度視察に来られ、フェンス沿いにお化けのように大きくなっているツツジの木を剪定していただける話がありました。ツツジが小さくなると、周辺の環境が大きく変わり、全体の整備もさらにやりやすくなると思います。

現在、本校の一番の特色であるホタル飼育をしていますが、学校横の木崎川を活用すると、児童によるカワニナの採取（今はほぼ平田さんにいただいている）や放流をすることができます。遠い吉敷川よりもさらに近い川での活動は、児童の意欲を増すことでしょう。低学年の川遊びも可能かもしれません。また、ツツジが咲く春には最高のシチュエーションの元で屋外給食もできるでしょう。総合的な学習の場、児童会活動の場としても可能性があります。

河川広場を常に使える状況にするには、地域の方々の継続的な支援が必要ですが、この広場を地域と学校の連携の象徴的な施設とすることでそれも可能ではないかと思えます。

皆さんも、是非、一度見に行って、活動の可能性を考えてみてください。

良城だからこそその日常的な体験学習が学校横でできる河川広場の可能性に夢が広がります。



地域の環境部の方々



木崎川の川底の様子



フェンス沿いの巨大なツツジの植栽
1 / 5 以下の高さになる予定です。



私が勤務していた旧三谷小学校の河川敷です。
こんな感じで野外給食ができるといいですね。